ANNUAL REPORT　Tsushima Senior High School Alumni Association Bulletin

三稜会会報

津島高校同窓会

平成24年7月20日
第61号

発　行　愛知県立津島高校内三稜会
〒496-0853
津島市宮川町3-80
電　話　0567-28-4158
発行人　千賀　修一
編集人　桜木　琢磨

高校南グランド桜並木

会長退任のご挨拶

三稜会会長　千賀　修一

平成十九年に会長に就任してからはや五年が経過し、本年の総会をもって新会長にバトンタッチすることになりました。津島地区に数多くの先輩各位がおられる中で、東京にいる小生に一一〇周年記念事業のために会長就任を要請されたことから、何とか母校の発展のために最大限の努力をしたいと思いお引受けしました。

そのためにはどうしたらよいかと、同窓会員や高校の先生方の英知を集め、色々な企画をしました。この企画の中で私が最も実現したいと思ったのは自習室の建物を建設して寄付することでした。この思いは、私が高校時代日曜日や夏休みに高校の教室を友人と共に自習室として使用した経験があり、私が会長に就任した当時、高校の放課後職員室前の廊下に机を出して熱心に勉強している生徒が何人もいることを目にして、後輩のために是非冷暖房完備の自習室建物を建設して寄付したいと思いました。

このほか、同窓会の名称を三稜会と変更すること、旧講堂の改修、三稜文庫の創設、三稜育英会の創設、三稜懸賞論文の開始、三稜賞の創設、三稜会総会を母校の講堂で開催し、同時に母校へのホームカミングデーとし、総会終了後に祝賀会を津島文化会館で開催すること等々これまでの同窓会運営とは大いに異なる方式を提案しました。これらの企画を提案したとき、あまりにも急激な改革であるとの理由で反対する意見もありました。また、旧講堂を改修保存し、自習室建物を建設して寄付することに関してはそれを実現するための寄付金が集まるかという点が最も危惧されました。そのうえ建物寄付に関し愛知県においては近年建物を同窓会が新しく建設して寄付する前例がないので、県としては寄付採納を受けられないという回答がありました。これについては、全国の都道府県の同窓会が寄付している実状を調査したところ、殆どの都道府県において高校同窓会が建物を建設し寄付していることがわかり、このことを県に上申した所、県から採納（寄付）の許可が出ました。

建物建設資金等についても、三稜会会員、学校の現・旧職員、ＰＴＡ会員の各位合計一、八六七名の方から、合計約九、〇〇〇万円の寄付をいただきました。

そのお陰で一一〇周年記念事業計画で企画したことが、会員の皆様の絶大なるご協力、ご支援により大部分を達成することが出来ました。経済的不況が叫ばれる折にこのように数多くの皆様方から多額の寄付が得られたことは、本校の創立が一一〇年前に当時の津島町が多額の寄付により開校できたことと併せ考えると、本校の伝統が現在にいたるまで脈々と引き継がれていると思います。

一昨年から開始された三稜懸賞論文に一昨年一二四名、昨年三二八名の応募があり、この制度が本校の伝統の一つとして定着することを切望します。

一一〇周年記念事業のスローガンの募集で最優作品は「三稜の誇りを胸に一一〇年のその先へ」でした。よりよい伝統を維持するためには、時代に即応した改革が必要です。最後に、母校の更なる発展と、三稜会会員の皆様の手により一一〇周年を期にできた新しい制度を今後も見直し、新しい伝統が作り続けられることを祈念し、会長退任の挨拶とさせていただきます。

三稜の誇りを胸に
１１０年のその先へ

三稜会会員の皆様方にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。皆様方のご支援で、学習室「興学館」の新築や「三稜育英会」の創設など、すばらしい教育環境を整えていただきましたことに心より感謝申し上げます。皆様お一人おひとりが、伝統という無形の財産のもとに、強い絆で繋がれていることに敬服しております。

「あかしやのはなぶさゆれて…」は、校歌の一節です。「あかしや」（ニセアカシア）は五月の初旬、白い藤に似た花をつけます。「あかしや」が、冬の裸木から一気に芽をふきだすそんな有様を眺めていると、生の輪廻を感じさせてくれます。先日、学校周辺に何本あるか数えてみました。旧講堂付近に二本、南道路に四本、下グランドに三本、プール裏には十数本が密集しており、全部で三十本近くありました。学校周辺も昔と環境がずいぶん変わり、ポプラ並木はすっかり姿を消してしまいました。校歌の「あかしや」がそのまま存在していることが妙に嬉しかったのです。

私は本校に赴任して以来、伝統の重みと責任の重大さを感じてきましたが、よき伝統は受け継ぎ、変えるべきは思い切って改革するという気概で、学校経営に取り組んでいます。平成二十五年度から、高校は新学習指導要領の完全実施に伴い、本年度から始業時間を五分早め、一単位時間四十七分、毎日七限授業、週三十五コマの新しいシステムを導入しました。これにより、週あたりの授業時間が従来よりも増え、四時から部活動を開始できるというメリットがあります。「文武両道」をめざす本校としては、大変都合がよい仕組と考えています。また、一、二年生の土曜学習会（講座を開講）、公開授業週間の設置など、学習の質と量の充実を図っています。昨年度の国公立大学合格者は、二十年ぶりに一〇〇名を超え、私立大学合格者も近年の最高値を記録しました。この結果は、卒業生一人ひとりの頑張りと教師の努力は当然のことですが、支えていただいている皆様方のお陰と深く感謝しています。

「我以外皆師也」

校長　田中基夫

また、部活動でもすばらしい成果が上がり、陸上部は四年連続インターハイに出場（昨年度女子一六〇〇m R、本年度女子二〇〇m、四〇〇m）、ラグビー部は昨年度、新人戦で東海大会に出場しました。本年度の高校総体予選では、尾張地区四十一校中で男子が総合優勝、昨年度女子が総合優勝しました。近年、本校を希望する中学生が増加していることを、大変うれしく思っています。

学校の目的の捉え方はいろいろありますが、私は「修養の場で、知・徳・体など生徒の全人格的向上に努めるところ」と考えています。生徒一人ひとりが目標の達成をめざして切磋琢磨し、人生の基礎づくりをする場であります。それゆえ、教師は生徒を厳しく鍛え、成長させなければなりません。そのため、鍛えられる側も、いくらかの我慢をしなければならないのも当然のことなのです。また、教師は、自信と誇りをもち、教育課題に取り組まなければなりません。

私は教職に就いてから三十七年、多くの先輩に導かれ、同僚・後輩に支えられ健康に恵まれこの道一筋に生きてこられました。この三月で退職になりますが、その間、教師として学んだ教訓は、「教師は生徒たちによって一人前に育てられる」ということです。授業力、生徒指導力など教師の力量は、生徒と教師の協働作業によってはじめて磨かれ、成長できるものです。「我以外皆師也」はかの吉川英治氏が、生涯座右の銘とされていたといわれる謙虚な生き方を諭した名辞です。このことを自覚している教師は、自分と生徒との関わりを冷静に見つめ、常に反省する謙虚さをもつ。そういう謙虚さこそが大切であります。

一一二年目の輝かしい伝統を誇る本校は、校訓、「知・仁・勇」の精神は脈々と生き続け、幾多の優れた人材を輩出し、在校生は先輩を乗り越えようと頑張ってくれています。この学校に勤務させていただいている幸せを心から感謝するとともに、「古人の跡を求めず、古人が求めたるところを求めよ」の精神で、さらに地域から信頼される学校づくりを目指して努力してまいります。

三稜会幹事学年を終えて

平成二十三年十月十六日に行われました三稜会総会におきましては、多数の同窓の皆様にご参加いただくとともに、温かいご支援とご協力をいただきまして誠にありがとうございました。幹事学年を代表しまして改めてお礼申し上げます。

さて、総会を終えてから既に半年を超える月日が経過しておりますが、本当に時間の経つのが早く感じられる年齢になったと思うこのごろです。

今こうして昨年度の三稜会を振り返る機会を得ていますが、決して皆様にご満足頂けるものではなかったのではないかと反省も沢山ございます。しかし、新しい三稜会のあり方を求めて先輩方の受け取ったバトンを一生懸命握って走ってまいりました。また、皆様方からの温かいご支援をいただきつつ、仲間とともに何かと重責を全うできたことに心からの充実感を得ております。

学年が異なる人間同士が酒を酌み交わしても、なかなか会話が弾み、心が近づくことは難しいものですが、今回、会場にこだました「校歌」の斉唱は私たち全ての同窓生の心が一つになれた瞬間だったと感激しておりました。「校歌で確認できた絆」…、一〇〇有余年の歴史と伝統を心から誇らしく思った瞬間でした。

最後になりますが、今後の三稜会のますますの発展と皆様方のご健勝、ご活躍を祈念し挨拶とさせていただきます。

高校三十四回生　代表　**岩田　政久**

平成24年度　総　会

総会に向けて

高校35回生代表幹事　水谷弘正

平成二十四年度の三稜会総会は、辰巳年生まれの三十五回生が幹事学年を務めさせていただきます。

幹事学年を迎えたということは、卒業してはや三十年。『光陰矢の如し』を正に実感するとともに、諸先輩の方々より脈々と受け継がれてまいりました伝統の一役を担うことへの重責と、我々三十五回生皆の力を合わせて務め上げねばという熱い思いで胸を震わせております。

本年も一昨年前から始まりました様式を踏襲して、総会並びにホームカミングデーは津島高校三稜館（体育館）にて実施し、懇親会は津島市文化会館にて開催させていただきます。

どちらの会におきましても、皆様方にはご不便・ご迷惑をおかけすることになりますが、何とぞ寛大なお心をもってのご理解をお願いいたしますとともに、誠心誠意皆様をお迎えさせていただきますことをお誓い申し上げます。

また、十五回生の皆様方におかれましては、卒業五十年という喜ばしい年をお迎えになられ、誠におめでとうございます。当日は懇親会の場において、皆様に楽しいひとときをお過ごしいただけるようお時間を設けております。ぜひとも皆様のご来場を心よりお待ち申し上げております。

さて、我々三十五回生は数年前の学年会を機に、本年を迎えるべく同級生の繋がりを深めるクラス会や同窓会理事会を通じ、千賀会長はじめ理事の方々や諸先輩、事務局の先生方にご助言を賜りながら、幹事学年としての体制づくりを進めてまいりました。

しかしながら、準備のための会合を行うたびに、分からない点が次々と出てきては侃侃諤諤意見を交わしあい、一つの目標に向かって進める作業は、まるで高校時代の文化祭を準備している時のような雰囲気がありました。そういった時間の中で懐かしい思い出話に花が咲くと、お互いそれなりに成長したことが実感でき、こうした機会を得られたことに対し、今は感謝の気持ちでいっぱいです。

正に、三稜会（同窓会）が脈々と続いている原動力をここに観ることができると感じながら、その真っ只中にいることを誇りに思い、幹事学年を務めさせていただく所存でございます。

終わりにあたり、母校の益々の飛躍と、会員の皆様の更なるご活躍を祈念し、幹事学年代表の挨拶とさせていただきます。

平成二十四年度三稜会総会次第

【総会】

日　時　平成二十四年九月三十日（日）
受　付　十時から
場　所　津島高校・三稜館

一　開会の言葉・幹事学年代表あいさつ　幹事学年　水谷　弘正
二　物故者への黙祷
三　会長あいさつ　三稜会長　千賀　修一
四　校長あいさつ　校　長　田中　基夫
五　津島高校勤続十年表彰
六　三稜会懸賞論文表彰　三稜会長　千賀　修一
七　議長選出・あいさつ　三稜会長　千賀　修一
八　議　事
　平成二十四年度役員選出
九　総会閉会の言葉
十　音楽部演奏（二十分）
十一　閉会（懇親会の案内）

（敬称略）

【記念写真撮影】

卒業後五十年会員（高十五回生・定十二回生）
総会・音楽部演奏終了後

三稜会合同懇親会

日　時　平成二十四年九月三十日（日）
受　付　十二時から
場　所　津島市文化会館

一　開会の言葉
二　会長挨拶
三　乾杯
四　卒業50周年会員表彰式
五　校歌斉唱
六　『三稜の鍵』継承式
七　次年度幹事学年（36回生）挨拶
八　万歳三唱
九　閉会の言葉

9/30(日)三稜会総会・合同懇親会の日程確認です！

○ホームカミングデイ（午前９時～）　津島高校にて
○三稜会（同窓会）総会（午前10時30分～）
　津島高校三稜館（体育館）
○合同懇親会（午後１時～）　津島市文化会館にて
※送迎バス（津島駅→津島高校→文化会館）あります。

「津島高校三稜会（同窓会）」のホームページが開設されました。

URLは http://www.sanryokai.com/index.html
ぜひ、アクセスしてみてください。

■ 平成24年度　三稜会事業計画（案）■

（１）三稜会理事会・幹事会　平成24年６月２日（土）
　・事業報告　　・事業計画
　・会計（三稜会・三稜育英会）報告　同監査報告
　・予算案　　・役員改選
　・総会に関すること（幹事学年35回生）
　・その他
（２）校内事務局打ち合わせ　　平成24年４月
（３）三稜会会報（第61号）の発刊　平成24年７月予定
（４）三稜懸賞論文募集　７月要項配布予定
（５）平成24年度総会
　（幹事学年：高校全日制35回生・定時制32回生）
　平成24年９月30日（日）10時半より
　記念撮影（高15回・定15回）
　総会・ホームカミングデー（会場：津島高校三稜館）
　・役員改選　　・卒50年会員表彰（高15回・定12回）
　・津島高等学校勤続十年表彰（竹田教諭）
　・三稜懸賞論文表彰
　懇親会　総会当日午後（会場：津島市文化会館）
　　受付12：00　開始13：00
（６）三稜会理事会・幹事会　平成24年秋予定
（７）三稜会入会式（全日制第65回生）平成25年２月28日（木）

■ 平成23年度　三稜会会務報告 ■

（１）三稜会理事会・幹事会　平成23年６月４日（土）
　・事業報告　　・事業計画
　・会計（三稜会・三稜育英会）報告　同監査報告
　・予算案　　・役員改選
　・総会に関すること（幹事学年３４回生）
　・その他
（２）校内事務局打ち合わせ　平成23年４月
（３）三稜会会報（第60号）の発刊　平成23年８月３日
（４）平成23年度総会
　（幹事学年：高校全日制34回生・定時制31回生）
　平成23年10月16日（日）10時半より
　記念撮影（高14回・定11回）
　総会・ホームカミングデー（会場：津島高校三稜館）
　・役員改選
　・卒50年会員表彰（高14回・定11回）
　・津島高等学校勤続十年表彰
　・三稜懸賞論文表彰
　懇親会　総会当日午後（会場：津島市文化会館）
（５）三稜会入会式（全日制第64回生）平成24年２月29日（水）

平成24年度　三稜会役員等（案）

相談役
児玉甚之助　中44
○津田はるみ　高4
○佐藤嘉國　高7
大橋忠行　定9
後藤秀務　高13
田中秀彦　高13
○千賀修一　高14
○桜木琢磨　高14
○渡辺勝　高14
浜田一徳　高18
伊藤文郎　高24
横井五六　高27

顧問
松岡貞夫　高12
佐藤忍　高17

会長
○横井義一　高15

副会長
城正憲　高18
○水谷正照　高20
○半田貢　高20

監事
太田賢一　高10
鈴木睦　高23

事務局長
◎伊藤一　高25（教頭）

常任理事
津坂園子　高15
○片岡静子　高19（会計）
稲葉真弓　高20
服部貴　高22
青山道男　高24
○北角浩一　高32

理事
岡田貞雄　高6
大島博　高20
東海広光　高21
寺田百合　高23
石川鑛一　高25（会計）
長谷川実　高29
野田道雄　高31
神田昭雄　高32
伊藤憲司　高33
◎岩田政久　高34
伊藤紀彦　高36

◎は新役員　○は役職変更

三稜会校内事務局

伊藤一　高25
伊藤泰光　高26
水谷忠司　高26
山田潤　高27
佐藤昌功　高28
平井章博　高29
服部孝子　高29
石田伸夫　高33
田中道徳　高33
黒澤康敏　高34（会計）
立松秀樹　高35
橋本昇　高36（会報）
加藤みどり　高38
山本治　高44

平成24年度　職員異動

□退職・転出された方々（敬称略）

［退職］
教頭　寺本修（国語）美和再任用へ
事務長　大矢繁善
教諭　大下重法（数学）
教諭　石野順子（家庭）一宮非常勤へ
教諭　井上義則（国語）杏和再任用へ
期付講師　安田雅大（理科）海翔（初任者）へ
期付講師　黒川綾美（地歴）本校非常勤へ
期付教員　中島順子（理科）
臨任主事　伊藤さよ子

［転出］
教頭　田村正美（数学）岩倉総合（校長）へ
教頭（定）伊藤和明（英語）津島（全・教頭）へ
教諭　諸戸義巳（英語）津島北（教頭）へ
教諭　小笠原正士（国語）一宮（定）へ
教諭　鈴木博己（地歴）新川へ
教諭　金澤学（英語）県教委へ
教諭　杉浦綾香（英語）稲沢へ
再任用　田中義和（地歴）津島東へ
再任用　平野清（地歴）津島東へ
再任用　河崎純一（理科）一宮北へ
再任用　加賀正憲（英語）稲沢へ

□新・転入された方々（敬称略）

教頭　伊藤和明（英語）津島（定・教頭）から
教頭　伊藤一（地歴）五条（教頭）から
教頭（定）織部匡久（地歴）県教委から
事務長　山本恒久　五条（事務長）から
教諭　高井行成（数学）惟信から
教諭　伊藤泰光（国語）一宮北から
教諭　井手政己（国語）杏和から
教諭　佐野美由貴（家庭）稲沢東から
教諭　羽土文彦（地歴）津島東から
教諭（定）加藤丈雄（英語）愛知工業（定）から
教諭（定）奥谷守道（理科）一宮北から
教諭　中山尚子（理科）新任
教諭　吉田将人（公民）新任
教諭　山崎莉奈（国語）新任
再任用　杉村正美（理科）美和から
再任用　山田昇一（英語）中川商業から
再任用　竹内恵（国語）津島東から
再任用　岩田宗樹（英語）津島東から
期付講師　今枝正樹（数学）新規
期付講師　伊藤亜希泰章（保体）本校非常勤から
期付教員　竹田理恵　新規
期付教員　武田公道　県から
主事　冨田

母校の近況報告

陸上競技部員　樫山楓さんが二年連続でインターハイ出場

陸上競技部の樫山楓さん（三年）は去る六月十七、十八日に岐阜で開催された全国高校総体東海大会で上位入賞を果たし、昨年度女子４００メートル×４のリレー種目でのインターハイ出場に続き、今年度は個人で、２００メートル、４００メートルの二種目でインターハイ出場という快挙を成し遂げました。

今年度のインターハイは七月二十九日から八月四日まで、新潟市で開催されます。全国大会でも上位入賞が期待されています。

平成二十四年度　高校総合体育大会　尾張地区　男子総合優勝（女子は四位）

去る六月十七日の水泳競技を以て、高校総体の尾張地区大会は閉幕しました。昨年度は女子の総合優勝でしたが、今年度は男子が総合優勝の栄冠を手にしました。

尾張地区大会優勝の部は、ラグビー部、団体で卓球部と三連覇を果たしたソフトテニス部です。これ以外にもサッカー部、バレーボール部が県大会に駒を進めました。個人種目で県大会に出場した選手を加えると相当数に及びます。

女子も、ハンドボール部、団体でソフトテニス部、卓球部が県大会に進出しましたが、個人種目での優勝を除き、優勝した部活動がありませんでした。これが総合優勝できなかった要因のようです。

「文武両道」を掲げてきた教育活動が結実した証に違いありません。この結果が進学実績に繋がると期待しております。

▼最近４年間卒業生動向

		平成24年		平成23年		平成22年		平成21年	
卒業者数	女	178	317	139	311	155	317	136	278
	男	139		172		162		142	
大学進学	女	140	267	114	259	128	268	106	225
	男	127		145		140		119	
短大進学	女	15	16	12	13	7	8	19	20
	男	1		1		1		1	
専修・専門学校	女	18	23	12	16	14	18	10	15
	男	5		4		4		5	
浪人	女	2	8	1	23	4	21	1	15
	男	6		22		17		14	
就職	女	1	1	0	0	2	2	0	2
	男	0		0		0		2	
家事・その他	女	2	2	0	0	0	0	0	1
	男	0		0		0		1	

▼平成24年　大学合格者状況

	大学名	平24		大学名	平24		大学名	平24
国公立大学	北海道教育	1	私立大学	立教大	3	私立大学	名商大	1
	弘前大	1		東京理科大	2		名文理大	5
	秋田大	1		明治大学	2		名芸大	1
	埼玉大	1		中央大	1		南山大	71
	山梨大	2		東海大	4		日福大	7
	富山大	1		神奈川大	1		日赤豊田大	2
	福井大	4		金沢工業大	8		藤田保健大	5
	静岡大	1		聖徳学園大	22		星城大	4
	岐阜大	13		岐阜医療科大	1		名城大	127
	名古屋大	5		愛知大	104		皇學館大	7
	愛知教育大	9		愛知医科大	2		鈴鹿医科大	5
	名古屋工業大	5		愛知工業大	65		京都外語大	1
	三重大	18		愛知淑徳大	96		京都橘大	4
	滋賀大	1		愛知学院大	38		京都女大	2
	京都工芸繊維大	1		愛知学泉大	1		同志社大	11
	神戸大	1		愛知工科大	1		立命館大	24
	鳥取大	3		愛知みずほ大	1		龍谷大	8
	山口大	2		豊橋創造	1		関西大	4
	高知大	2		桜花学園大	4		関西外語大	1
	鹿児島大	1		金城学院大	25		その他	5
	はこだて未来大	1		修文大	2	私立大計		855
	秋田県立大	1		椙山女学園大	47	短大	岐阜市立女短	9
	都留文科大	2		大同大	7		三重短	4
	高崎経済大	1		中京大	22		愛知学院短	1
	石川県立大	1		至学館大	5		名古屋短	8
	福井県立大	1		中部大	32		名文理短	4
	岐阜県看大	1		東海学園大	10		名女大短	8
	愛知県立大	9		同朋大	1		名芸大短	2
	名古屋市大	5		豊田工業大	1		名柳城短	3
	滋賀県立大	3		名音大	1		愛知きわみ看短	1
	島根県立大	1		名学院大	15		至学館大短	2
	愛媛県立医療大	1		名外語大	10		南山大短	2
	下関市立大	1		名女大	16		名経大短	1
	北九州市立	1		名学芸大	6	短大計		45
国公立大計		102		名経大	3			

恩師のたより

元気です

一組担任
西井　松生　先生

私の最後の担任学年だったのが三十五回生の皆さんでした。昭和五十八年三月、一緒に津島高校を去り、新設された美和高校へ転勤しました。あれからもう三十年、感慨ひとしおです。

平成十一年三月、三度お世話になった津島高校を定年退職し、名電高に勤め、すぐに学園本部に移り、大学、高校、中学校、専門学校の経営面に関わり、経営者の立場から教育を考える機会を得ました。しかし、平成三年に津島高から西春高に転勤した時から、授業がやれない立場に立たされたわけで、教員としては寂しい日々を送っていました。教員はやはり担任をして、授業をやっているのが一番楽しく、明るい気持ちになれます。

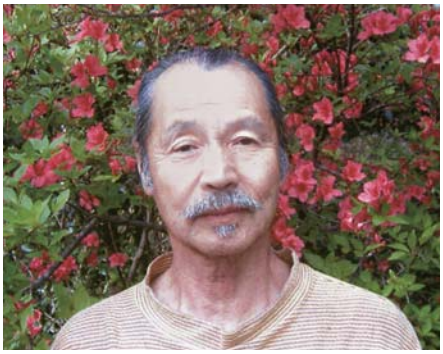
現在私は、新川高校で非常勤講師として、孫と同世代の生徒達に物理の授業をしています。毎日が充実していて有意義に過ごしています。津島高校と違い若い学校ですから、実験器具も少なく、波動実験器、水熱量計等手作りしました。ホームセンターなどで材料捜しをしていますが、これも結構楽しいものです。

趣味の中で、ずっと封印していた海釣りを定年後始めました。今は、月に一度のペースで五ヶ所湾の近くへ鯛釣に出かけています。四畝ばかりの畑で雑草と格闘しながら、野菜、豆類、芋類他も手掛けています。この文が皆さんの目に留まる頃には、西瓜ができていることでしょう。

現在の私があるのも津島高校で、明るく、楽しく、正しくを学んだお陰です。ありがとうございました。

三稜会のご発展を祈念します

二組担任
深川　裕稔　先生



幹事学年の三十五回生の皆さま、さぞかし多方面でご活躍のことと存じます。

皆さまと過ごしたあの頃は校長先生が佐藤一成先生、教頭先生が宇佐美先生でした。

津島高校では両先生に大変お世話になりました。

津島高校の後は海南高校と佐屋高校に奉職しました。

三十八年間、三重県から通勤していましたが、いずれも通勤に便利な学校に配属していただいたことを感謝しています。

最後の年は九十五才の母の介護のために、年休を全部使い切らせていただきましたが定年まで無事に勤め終えることができました。

兼業農家でしたので数年前までは忙しい生活をしていましたが、今は農業もやめて、小説を書いたり、陶芸をしたり、俳句を作ったりして暮らしています。

定年の数年前、わずかですが温泉の出る山荘住宅地を買い、今ではそこに定住しています。

ちょうど今、水芭蕉の花が終わり、ワサビが青々と茂り、山ツツジが満開です。

何かの機会がありましたらどうぞお寄りください。

今後とも三稜会の皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

嗚呼！青春（Ⅳ）

三組担任
寺田　志郎　先生

今年の幹事学年の第三十五回生の皆さんが三年生だった年は、私の教員生活十年目の節目の年にあたりまして、教員としての青春時代がぼつぼつ終わりを告げようとしていた時機でありました。

また、前年度も担任として卒業生を送り出しており、二年連続での三年生の担任を仰せつかり、そろそろ「転勤」という二文字が頭をかすめ始めた時機でもありました。

この学年は、主任の西井松生先生をして「この学年にすべてをかける」とまで言わしめたほどで、第二学年では、習熟度別学級編成を採り入れ、本校ではこれまでに例のない学習システムで指導に当たり、大きな成果をあげたように思っております。

進路指導でも、進路指導室の装いも新たにし、自習室を併設し、組織的・系統的な進路指導が始まったような気がしました。

部活動（サッカー部）では少年サッカースクールで小さ

いころからボールに親しんできた選手が入学し始め、これまでの泥臭いサッカーから華麗なサッカーへの変身を図りましたが、指導力が伴わなかったせいか、あまりいい結果が出ませんでした。

その後も十年以上、津島高校でお世話になりました。現在は、お陰様で健康にも恵まれ、私立高校に毎日通勤しています。

卒業生の皆さんのますますのご活躍と、津島高校のご発展を心からお祈り申し上げます。

〝人〟との出会い

四組担任
小川　隆司　先生

この三月、三十八年間の教員生活を無事終えることができた。恵まれた職場と多くの人に出会い、支えられてきたことに尽きる。退職時には、多くの先生方、卒業生からお祝いをしていただき、心から感謝申し上げたい。

昭和四十九年から津島高等学校定時制に五年間及び全日制に十九年間お世話になった。後半の五年間は生徒会主任として、生徒会役員と関わったが、生徒の活力に溢れた様子が非常に印象に残っている。生徒の能力は高く、やれば結果が出るという姿を多く見てきた。バスケットボール部男子の顧問としても、十四年間県大会に出場した。「尾張支部西の雄」と言われ、東の滝高校とは良きライバルとして、共に切磋琢磨してきた。

その後、津島北高校で十九年お世話になった。純粋で素直な生徒の姿が強く印象に残っている。バスケットボール部女子顧問として、生徒と一緒に汗を流し、県大会にも出場することができた。

この間に送り出したたくさんの教え子たちが、様々な分野で活躍していることに誇りを持っている。一人ひとりの当時の顔がしっかりと脳裏に焼き付いている。将来を担っていく子どもたちの成長過程に携わることができたことは、本当に幸せである。

現在、再任用制度で五条高校にお世話になっている。まだまだしたいことがたくさんある。もちろん〝人〟との出会いもそのひとつである。

若者の過労死・うつ病を憂う

七組担任
宮崎　脩一　先生

今年五月二日、内閣府は「自殺したいと思ったことがある」人が、二三・四％あり、二十代では二八・四％もあるという調査結果を発表した。ここ十四年連続で全国の年間の自殺者は三万人を越えている異常な事態である。就活自殺、非正規雇用、長時間労働、低賃金と若者の環境は憂うべき状況にある。結婚もできず、子どももつくれない。神奈川県の「和民」にあこがれて就職した大学卒の女性が、僅か三ヶ月後に過労からくるうつ病になって自殺に追い込まれた。突然、娘を失ったご両親の気持ちは察するにあまりある。

労働者を守るべき労働基準法が労働者のいのちや健康を守り切れていないし、財界の要求に屈して、三六協定で労働時間の上限を決めていないから、奴隷のような労働を強いられている。また、仕事が原因で死亡しても、労基署が、高いハードルを設けて労災と認定したがらない。こうした現実を学び、「いのちより大事な仕事がある」という考えを捨てて、「いのちあってのものだね。」「家族の方が大事！」という考えに、社会も青年も変わらないといけないと思う。

退職して十一年、様々の過労死事件と関わっていのちの大切さと、いのちを守る力を津島高校卒の若者に身につけて欲しいと思うや切である。

第７回生寄贈のオブジェ「企望」

新米教師としての日々

十組担任
杉原　春仁　先生

津島高校では新任以来八年間、いわば教師としての基本を学び土台を築かせていただいた私にとって忘れ得ぬところとなりました。

この三十五回生は担任として初めて一年から持ち上がり卒業まで預かった思い出深い学年であり、特に進路面ではミスのないようにと、三年時はかなり肩に力が入っていたことを思い出します。とは言え、三者懇談会では言わずもがなのことを言って、親御さんを悲観させたり、データを活用していないのを後から気付いたりと、あまたの失敗を繰り返し、その都度生徒諸君

の優しさに助けられたり、先輩の先生方のアドバイスに救われたりしながら無事に卒業させることができた時は、心からホッとしたものです。

そんな教師として未熟だった私も、三十年余りの経験を積み、今年の三月末で定年退職の日を迎えたというのは、何か夢幻のような気分さえします。

やがて死ぬ
けしきもみえず
蝉の声　芭蕉

現在の私は、「晴耕雨読」の日々ですが、機会があれば又再任用、講師として教壇に立ちたいと思っています。

今は、卒業生の皆さん方と再会できる日を心待ちに、一日一日を大切に、元気に過ごしています。

訃報

三年九組担任
橋本昌之　先生

橋本先生におかれましては、生前、教育に情熱をそそぎ、誠信誠意生徒と向き合っていただきました。

ありがとうございました。

ご冥福をお祈り申し上げます。

高校三十五回生担任

一組	西井松生
二組	深川裕稔
三組	寺田志郎
四組	小川隆司
五組	寺島博
六組	大橋泰子
七組	宮崎脩一
八組	杉原修
九組	橋本昌之
十組	杉原春仁

平成23年度　三稜会主催　懸賞論文選考結果について

課　　題　「いのち」（生きるとは）

応募総数　341名（今回はすべて津島高校生からの応募でした）
入賞作　13名

〈最優秀賞〉１名　２年　佐藤千玖紗さん

〈優 秀 賞〉２名　２年　大口　史容さん　２年　高尾和香菜さん

〈佳　　作〉10名　２年　野田　美紀さん　２年　田仲　燿子さん　２年　岩田　美希さん
２年　鬼頭　美帆さん　２年　佐藤　麗菜さん　２年　鈴木あすかさん
２年　新野　夢佳さん　卒業生　井戸　菜摘さん
卒業生　宮城　並季さん　卒業生　望月　麻帆さん

入賞された皆さん、おめでとうございました。また、ご応募いただいた皆さん、ありがとうございました。なお、表彰式は以下の通りです。

日　時　　平成24年９月30日（日）午前10時30分頃　津島高等学校三稜会（同窓会）総会
場　所　　津島高等学校三稜館（体育館）

●最優秀作紹介●

「命　生きるとは・・・」

愛知県立津島高等学校
二年　佐藤千玖紗

私たち人間は、水と食べ物と睡眠があれば、生命を維持していくことができると思います。それだけを考えると今の日本においては、生きることは難しいことではありません。しかし、それは生きることといえるのでしょうか。つまり、「生命を維持する」ということと、「生きること」は同じなのか、ということです。

私は同じだとは思いません。私は「生きること」は、食事や睡眠などの基本的な行為よりも、そのほかの、生きるためにどうしても必要というわけではないような行為、または豊かな感情、感受性などのプラスアルファの部分が大切になるのではないかと考えています。

私は友人のために手作りの誕生日プレゼントをつくったことがあります。渡した時の友人の笑顔を想像しながら一生懸命に私はつくりました。そのときの時間は自分でもとても楽しくしあわせな気分になりました。受け取ってくれたときには、友人の想像以上のとびきりの笑顔に、また自分は幸せを感じることが出来ました。それはちょっとした普段の何気ない会話でも同じで、自分の冗談に相手が笑ってくれるだけ私はとても嬉しくなります。相手に楽しい気持ちになってもらえるこ

とは、自分が楽しい気持ちになることにも繋がります。誰かを笑顔にすること。これは私にとっての「生きること」の一つだと思います。

私はよく夜に外へ出て、星空や月を眺めたりします。また、芸術鑑賞をすること、具体的には絵を見たり、コンサートやレコード・CDでクラシックなどの音楽を聴くことが好きです。それらを見たり、聴いたりしていると、思いが言葉にならず、自然と涙が溢れたりすることがあります。その瞬間、流れた涙によって、私は今生きているということを、ふと思い出させられるのです。ものの美しさを感じられること。これもまた私にとっての「生きること」です。

人がなにがしからの行動をとれば、なにがしからの影響が起こると思います。しかし、私は自分が誰かに影響を与えることがあるとは、あまり思っていませんでした。私は、今までの人生で一度だけ、死にたいといったことを、友人にこぼしたことがあります。自分に生きている価値なんてなく、むしろ迷惑をかけているだけなのではないかと思ったからです。しばらくしてから、その友人は私に手紙をくれました。そこには、その友人が、今の道を歩いているのは、私の影響が大きいのだといった内容とともに、感謝の言葉が書かれていました。それを読んで私はまず、ただただ驚きました。今まで本の中の登場人物に影響を与えられることはありましたが、まさか自分が他の人に良い影響を与えていたとは、思いもしていませんでした。自分が知らないうちに人に影響を与えていたということは、私にとってとても驚くべき事実だったのです。

私は音楽部に所属していますが、それから暫くしてからです。部活で私が楽器を練習していた時、友人が私の演奏を聴いて、「感動で思わず足がとまった」と言ってくれたことがありました。そのとき、こんな自分でも誰かを感動させることが出来るのだ、ととても嬉しく感じ、心が満たされた感じがしたのを今でもはっきりと覚えています。

これらの経験から私は新たに、「生きること」の新たな意味を見つけられた喜びを感じました。そして私は、ふと、「生きる意味を見つけていくということこそが、生きているということなのではないか」と思いました。

最初に私は「生命を維持すること」は簡単だと言いました。確かにそうだと私は思います。しかし、「生きること」は決して簡単なことなんかではありません。私が述べた、私が考える「生きること」も簡単にできることばかりではなく、難しいこともたくさんあります。

何もかもがうまくいっていては張り合いがありません。また、苦労して乗り越えたその先に、達成感や喜びがあるからこそ、辛い時でも頑張ることが出来ます。簡単ではないが故に生きるということは楽しく素晴らしいものになるのだと思います。

これからも、生きていれば楽しい出来事だけでなく、必ずたくさんの辛い出来事もあると思います。しかし、辛い時でも私は乗り越えるたびに、新たな「生きること」の意味を見つけて、たとえ少しずつであっても前に進んでいきたいと思います。そのようにして、日々自分の人生の質を上げていき、スタートラインでは自分より前に立っていた人も追い抜けるような、密度の濃い充実した人生を生きたいと思います。そして、欲張りかもしれませんが、叶うことなら私は、後生にわずかでも自分の光を残していけたら、と思います。きっと、命は自分の力で輝かせていくものです。だから、私は私の見つけた、自分だけの生き方で命を輝かせて、毎日をしっかりと生きていきたいです。

●優秀作紹介●

「いのち」

愛知県立津島高等学校
二年　大口　史容

僕は、命についてどういうことか言葉から考えることにしました。

どうして「いのち」なのでしょうか。「命」ではなく。

僕は、割と漢字使いを好んでいるので、文章を書く時などでも、自然と漢字が多くなっています。そのためか分かりませんが、文章を読んでいて、簡単な漢字で表記できるものが、ひらがなで書かれていると、少し違和感を抱いてしまいます。しかし、この作文を書くにあたって、テーマである「いのち」の言葉を見た時、私は全くと言っていいほど違和感を持ちませんでした。後になってとても不思議に思いました。どうして、あんなに自然に「いのち」という言葉を受け入れられたのでしょうか、と。

「いのち」という言葉は、和言葉である。後に漢字が伝来し、この言葉に「命」という漢字を当てはめたのだが、漢字の持つ意味と和言葉の持つ意味とは、ニュアンスが微妙に異なっています。「いのち」の語源を調べてみると、いろいろと説はあったのだが「息の道」、あるいは「息の内」という言葉からきているらしいということが分かった。どうやら、日本人は「いのち」を「息をしている状態」と考えていたようである。日本語には、「息を引き取る」という言葉がある。これは、ただ単に「息が止まる」という意味だけを持つのではない。この言葉には、亡くなられる人の「息」を残された人達が引き取り、「いのち」を伝えていくという意味も

含んでいるのだ。つまり、残された家族や友人に「いのち」を引き取られるということなのだ。このことから「いのち」は消滅したり断絶したりするものではなく、次から次へと伝えられていくものだと考えることが出来る。「いのち」は、尽きることなく続いていくものなのだ。それでは、「命」とはどういうものなのだろうか。

「命」は、「口」と「令」とに分解することのできる会意文字である。「口」は、伝達という意味を表し、「令」はお告げという意味を表している。よって「命」とは、「天から授かった、生きる定め」というニュアンスをはらんでいるのである。「天命」という言葉があることから分かるように古代中国では、「命」という言葉に「天から授けられた」という意味を強く込めていたのだろう。

このように考えていると、私が「いのち」という言葉を簡単に受け入れられたのにも、納得がいった。知らず知らずのうちに自分の中にも和言葉としての「いのち」のニュアンスが染みついていたのだろう。先に書いた「息を引き取る」という言葉について考える中で、私は二年前に他界した祖母のことを思い出した。祖母には子どもが五人おり、彼等の意見では、病院での延命治療はさせたくないということだった。たくさんの管につながっている祖母の姿は、見るに耐えないものなのだろう。祖母の苦しみを持続させるのも、当然辛いはずだ。そういう訳で祖母は介護老人保健施設に入所した。毎日誰かが訪問しては、祖母を見舞っていたという。これは、時間をかけた「息の引き取り」ではないだろうか。私は今になってそのように思った。長い時間をかけて、祖母の「いのち」を子ども五人で引き取っていったのだ。

祖母の「いのち」は、次の世代へと受け継がれたのだ。

夏休みには、様々な主催者が小論文や作文を募集しているが、そのテーマとなっているものは、今、本当に考えなければならないものばかりだった。「国際協力」や「原子力」「環境」など。その中で「いのち」というテーマがあがっているということは、この言葉について本当に考えなければならない時代が来ているということだ。「いのち」の尊さが失われている現実がある、ということなのだ。

「いのち」という言葉からいろいろなものを読み取って感じとってほしい。今、この瞬間にも誰にも看取られることなく失われていく「いのち」があるのだ。「いのち」という言葉に限らずとも、一つ一つの言葉にもっと興味を示してみてはどうだろうか。そうすれば、その言葉はとても大きな意味を持つようになり、大きな広がりを見せるのだ。

ということで私は、「命」について言葉から考えてこれほどまでも深い意味があったとは気付かなかった。

「いのち」という言葉を考えた時、生きるとは最後まで天寿をまっとうすることだと思う。近頃、若者が自殺している記事やニュースをよく見る。今も自殺したいと願っている自殺志願者がいるわけで、その人達にとっての「命」とは苦しみや悲しみで、その人々に私は何もいうことはできないが、「命」は苦しみや悲しみを生むけれども、「命」を失っても苦しみや悲しみを生むと思う。今回、「命」について改めて考えることができ、良かったと思う。

●優秀作紹介●

「命（生きるとは）」

愛知県立津島高等学校
二年　高尾和香菜

「生きること」それは、自分の周りの人の気持ち・感情を変化させることだと思う。

現在、生きている人々の多数は笑顔でいるだろうか、泣いているだろうか、怒っているだろうか。どのような感情をもっているかは、人それぞれ違うが、その感情はほとんど自分だけでは生まれない。自分の周りにいる人が、その感情にさせているのだ。

私の祖母は、私が中学生の時に亡くなった。祖母が元気に生きていた頃、私が会いに行く度に、私が大好きだったお菓子を買ってきてくれたり、太陽の光のようなまぶしい笑顔を私に向けてくれた。私は祖母に会ってその笑顔を見るたびに、私も笑顔になった。私にとって祖母は、太陽のように自ら輝きを放つ人であった。

しかし、ある日突然、私を幸せな気持ちにさせてくれた祖母が、ガンであることを聞かされた。いつも元気で、わたしを笑顔にさせてくれた祖母が、どうしてこんな病気になったのか全く理解できなかったし、これからどのように祖母に接すればよかったのかわからなかった。すぐにでも祖母の元へ行ってあげたかったけれども、私が中学の時やっていた部活動は、とても厳しく、一日の練習量は多く、休みが数える程しかなかった。そのため、ガンだと聞いていたのに、私はなかなか会いにいけなかった。やっと休みがとれて、祖母に会いに行くことができたが、祖母はやせ細っていて、喋ることも少し難しい状態になっていて、一瞬祖母であるのか疑ったほどであった。

人はいつか死んでしまう。命が消えてしまう。そんなことはずっと前から知っていることなのに、命が消えてしまうかもしれないということが、言葉で表せないくらい怖くて、悲しくて、辛いものだということを知った。祖母にどう接すればよいのかわからなかったが、とにかく笑顔で接した。祖母が

私を幸せな気持ちにしてくれたように、次は私が祖父母を笑顔にしてあげたいと思い、必死に祖母の前では笑顔をつくった。

本当は、祖母が死んでしまうことが怖くて、私の心は泣いていた。けれども、祖母の生きてきた人生に、少しでも「楽しかった」と思えた回数が増えて欲しかった。その時の私の心の中は、大好きだった祖母が、微笑んで欲しいという気持ちでいっぱいだった。

そして、祖母はその数ヶ月後に亡くなった。お葬式で見た祖母の姿は、前会った時よりも、さらに細くやせて、冷たかった。祖母の顔を見た時、笑顔で私を真っ直ぐ見つめる祖母が頭の中に映った。「きっとお婆ちゃんは今、天国で私にくれたあの笑顔でいるのだろうな」と一瞬思った。その後、私は「一つの命はこんなに突然失われてしまうけど、命がある（生きる）ことによって、その人の周りにいる人を幸せな気持ちにさせてくれるものだなあ」と改めて感じた。

私は祖母の死から学んだ、生きることの大切さを。そして決心した。私の周りで生きている人を、一人でも多く笑顔にしてあげるための行動をするということを。

私はよく「ノー天気」な人だと言われる。確かにそうかもしれない。いつも笑っているのだから。けれども、私にも悲しいことや辛いことも沢山ある。人前ではそんな感情である時も、笑顔でいるだけだ。

自分が悲しい顔をしていると、それを見た人も悲しくなるし、雰囲気も暗くなる。しかし、自分が笑顔でいれば、他人も 笑顔になって楽しく感じる。それを知っているからこそ常に周りの人が笑顔になるように笑っているのだ。私の場合、自分が楽しめるような行動をして自分が笑顔になることより、他人が楽しめて笑顔になってくれる行動をする方が好きだ。小さい頃からそう思っていたのかはわからないが、祖母が亡くなって、決心したときに改めて思った。

「今私は周りにいる人を笑顔にさせているのだろうか」「私は他人にどんな影響を与えているのだろうか」自分が決心したことが実行中となっていて欲しい。そして、周りの人々の笑顔がもっと増えてほしい。今の世の中、失業率が高く、景気もよくないため、世界中の人々の笑顔数が減少していると思う。お笑い芸人がテレビを見ている人を笑わせることも、他人を笑顔にさせるための一つの手段であるが、私は、一瞬だけ笑顔になることをするのではなく、「あのとき生きていたから、笑顔になれたのだ」と、過去を振り返った時に思い出せるような、人に影響を与える行動をしたい。祖母がその一例である。私は今、祖母を太陽のように自ら輝きを放つ人であると思っている。それと同様に私も誰かにそのように思われ、私が生きているから笑顔になれると思われる日がくると嬉しい。私の決心は一生壊れることがないと信じている。誰に何と言われても、私の生きる理由、決心はきっと変わらないだろう。私が書いたこの文章を読んで、少しでも多くの人々が、自分が生きる理由や自分の命とは何なのであるかを考えてくれたら嬉しい。もし、生きている理由がわからない人がいたら他人を笑顔にさせる行動をまずしてみて欲しい。

【選　評】

小説家・稲葉　真弓

（津島高校20回生）

◎最優秀賞　佐藤千玖紗

どこに生きる喜びを持つか、それはどうやったら得られるのか。佐藤さんの論文は、「命」のありようを精神の豊かさにつなげたところに読み手を打つものがありました。ことに私は、人間は水と食べ物と睡眠があれば生きられるが、それは生きることと同じだろうか、と問いを投げかけた部分に「生」の本質を考える視線を感じました。そう、佐藤さんの言う通り、豊かな感情、感受性があって始めて「命」は輝くのです。それぞれの命の輝きが、小さな喜びを通じて隣りの人につながっていくこと。この発見を大切にしてください。

◎優秀賞　大口　史容

「いのち」と「命」の違いを表記の違いから考えてみたユニークな切り口に、他の論文とは違う味わいがありました。印象深かったのは、「息を引き取る」という言葉に関する部分。「引き取る」とは単に人の命が「むこうに引いて行く」という意味だけではなく残された人がその人の命を「引き受けること」なのだという説には感心しました。これこそが本当の命の連鎖の形かもしれませんね。

◎優秀賞　高尾和香菜

おばあさんの死を通じて、自分の出来ることを精いっぱいやった体験が描かれています。死は本人もつらいしそれを受け入れる周囲もつらい。高尾さんはそのつらさのなかで「笑顔」を信じておばあさんを見送りました。ぎりぎりまで笑顔を忘れず向き合った二人の姿が目に浮かぶようです。だれかを幸福にするための小さな行為が光る論文でした。

平成23年度　三稜会(一般会計)収支計算書(案)

自平成23年４月１日
至平成24年３月31日

収入の部

(金額単位：円)

科　　目	予算額	決算額	差　異
入　会　金　収　入	1,695,000	1,675,000	20,000
総会費からの繰入	200,000	0	200,000
そ　の　他　の　収　入	400	49,576	－49,176
収　入　計	1,895,400	1,724,576	170,824

支出の部

会　報　費	800,000	263,979	536,021
慶　弔　費	60,000	53,440	6,560
生　徒　記　念　品　費	150,000	67,830	82,170
会　議　費	60,000	32,766	27,234
事　務　費	466,930	371,208	95,722
そ　の　他　の　支　出	180,000	131,000	49,000
支　出　計	1,716,930	920,223	796,707

当　年　度　収　支　差　額	178,470	804,353	－625,883
前年度繰越収支差額	2,733,906	2,733,906	0
次年度繰越収支差額	2,912,376	3,538,259	－625,883

収支予算書(案)

自平成24年４月１日
至平成25年３月31日

収入の部

(金額単位：円)

科　　目	24年度予算額
入　会　金　収　入	1,690,000
総会費からの繰入	0
そ　の　他　の　収　入	400
収　入　計	1,690,400

支出の部

会　報　費	800,000
慶　弔　費	60,000
生　徒　記　念　品　費	150,000
会　議　費	60,000
事　務　費	500,000
そ　の　他　の　支　出	120,400
支　出　計	1,690,400

当　年　度　収　支　差　額	0
前年度繰越収支差額	3,538,259
次年度繰越収支差額	3,538,259

三稜会(一般会計)　貸借対照表

平成24年３月31日現在

(円)

科　　目	金　　額
Ⅰ．資産の部	
普通預金	
普通預金 三菱東京ＵＦＪ銀行 津島支店	3,538,259

平成23年度　一般財団法人三稜育英会　収支計算書(案)

自平成23年４月１日
至平成24年３月31日

収入の部

（金額単位：円）

科　　目	予　算　額	決　算　額	差　　異
110 周年記念事業余剰金	11,599,741	10,905,636	694,105
三稜会祝賀会からの寄付金	1,977,221	2,373,006	－395,785
三稜文庫募金の寄付金	144,895	221,343	－76,448
松の木募金からの寄付金	1,344,517	1,440,059	－95,542
周年記念事業積立金からの寄付金	47,878	47,888	－10
三稜懸賞論文後援者からの寄付金	400,000	400,000	0
高校 14 回卒業生からの寄付金	500,000	800,000	－300,000
その他の収入	0	29,604	－29,604
収入計	16,014,252	16,217,536	－203,284

支出の部

三稜文庫	1,000,000	210,000	790,000
学校クラブ活動等に対する補助	600,000	444,740	155,260
三稜懸賞論文	500,000	342,785	157,215
三稜賞	100,000	34,185	65,815
学校設備等の改善援助金	1,000,000	462,890	537,110
その他の支出	100,000	36,015	63,985
支出計	3,300,000	1,530,615	1,769,385

当年度収支差額	12,714,252	14,686,921	－1,972,669
前年度繰越収支差額	2,623,944	2,623,944	0
次年度繰越収支差額	15,338,196	17,310,865	－1,972,669

※高校14回卒業生からの寄付金80万円の内訳は、高校14回生30万円、同大沢宣勝氏30万円、同千賀修一氏20万円です。

収支予算書（案）

自平成24年４月１日
至平成25年３月31日

収入の部

科　　目	24 年度予算額
110 周年記念事業余剰金	0
三稜会祝賀会からの寄付金	800,000
三稜文庫募金の寄付金	100,000
松の木募金からの寄付金	100,000
周年記念事業積立金からの寄付金	0
三稜懸賞論文後援者からの寄付金	400,000
その他の収入	1,500
収入計	1,401,500

支出の部

三稜文庫	200,000
学校クラブ活動等に対する補助	1,000,000
三稜懸賞論文	500,000
三稜賞	100,000
学校設備等の改善援助金	1,000,000
その他の支出	101,500
支出計	2,901,500

当年度収支差額	－1,500,000
前年度繰越収支差額	17,310,865
次年度繰越収支差額	15,810,865

一般財団法人三稜育英会　貸借対照表

平成24年３月31日現在

（円）

科　　目	金　　額
Ⅰ．資産の部	
普通預金	
普通預金 三菱東京ＵＦＪ銀行 津島支店	17,310,865

❖ 叙勲受章者の皆さん ❖

本校卒業生は各界でご活躍され、叙勲を受けられた方々も大勢みえます。長年のご苦労に敬意を表し、三稜会会報でご紹介させていただきます。（他にも叙勲を受けられた方がおみえになると思いますが、全部をお載せできずに申し訳ございません。ご本人やご家族、周囲の方々でぜひ三稜会事務局までお知らせください。）

受章時期	種　　別	受章者ご芳名	本校回生	備　　考
24 年 春	瑞宝双光章	鈴　木　　睦	高校7回生（昭30年卒）	矯正教育功労
24 年 春	瑞宝双光章	横　井　貞　之	高校12回生（昭35年卒）	教　育　功　労

喜寿を迎えた六回生
母校を訪ね校歌斉唱

浅野　俊雄（名古屋市在住）

私達第六回生（昭和二十九年卒）は還暦（六十歳）以来毎年、秋に名古屋・東京・大阪方面より六十名が参加し、一泊旅行で旧交を温めあっています。今年は七十六才ですから十五年重ねてきました。

昨年（十一月二十五日～二十六日）は津島神社で喜寿のご祈祷を受け、母校訪問、なばなの里のイルミネーション、長島温泉泊、伊勢神宮といったユニークな企画。

津島神社では伊藤宮司さんらの出迎えをうけ、ご挨拶をいただいたあと、拝殿にむかい厳粛なご祈祷に臨む。丁寧に参加者全員の名前が読みあげられ感無量。津島神社は西暦五四〇年建立で、今年で一四七二年になります。奈良の東大寺は、七〇〇年代で歴史を感じました。

津島高校では田中校長先生らに出迎えていただき、卒業以来初めて校内に入りました。

愛知県で三番目に「三中」として開校（明治三十三年）以来一一一年が経過しています。また、同窓会長は千賀会長が就任、東京在住で時代にあった今後の人を育てる環境を作っておられることを感じました。その千賀会長の提唱で新築された「興学館」では五十七年ぶりに皆で校歌を合唱、なつかしい学生時代にタイムスリップすることが出来ました。

作家の津本陽さんの話として、織田信長は津島の力によって楽市楽座とか、武力の力を発揮したといわれています。

「ガチャ万」といわれた、日本の毛織物は、津島が発祥の地。いろいろと学ぶことが出来ます。

私達は、新年一月には新年会を名古屋で開いています。東京、大阪からも参加されます。担任だった田中輝二先生（化学、物理）も毎回参加され、今年で十二回続いています。これらは幹事（佐藤昭太郎、岡田貞雄）さんの力量（人間性）によるものと感謝しています。

昨今の日本の状況は、有史以来三回目のピンチ（明治維新、太平洋戦争、今回）といわれています。大きな曲り角です。その発生・処置はすべて人がすることです。その人は教育であります。いつまでも続けてはいけません。変えなければいけません。

知識偏重主義（覚える、筆記テストの点数）から人間の幸せとは何か、世界の価値観の認識、対話力が重要です。

それらは人の心、知恵を歴史上の人の知恵から学んで、人の為になる力を出すことが大切なことと思っています。

今回の旅行を通して学びました。そのことを我々の幹事さんはよく知っているから続いていると思います。

いつまでも続くことを願っています。

高校６回生同期会　「喜寿のご祈祷」　津島神社にて　H 23.11.25

編集長より一言

三稜会の二十三年度懸賞論文は、「命」がテーマで、最優秀賞ほか優秀賞の二作品を掲載しました。

命が消えゆくとは夕陽が静かに沈んでゆくような。では、「消えゆく側」の思いはどうか。ここに、体の自由を失った親が愛する子供たちにあてた珠玉の一通があります。原作者不明で角智雄の訳詞「手紙」（中略）を紹介します。

人は快復し難い病に臥すと切歯扼腕、涙で枕を濡らす。手紙は、

「年老いた私が今までの私と違ったとしても、そのままの私を理解してほしい」という祈りの言葉から始まる。

「消え去って行くように見える私へ励ましのまなざしを向けてほしい。」

「足も衰えて、立ち上がることすらできなくなったら、あなたがか弱い足で立ち上がろうと私に助けを求めたように、よろめく私にあなたの手を握らせてほしい。あなたを抱き締める力がないのを知るのはつらいけれど、私を支えてくれる心だけを持っていてほしい」

「あなたの人生の始まりに私がしっかりつき合ったように、私の人生の終わりに少しだけ付き添ってほしい。あなたが生まれてくれたことで受けた多くの喜びと、あなたへの変わらぬ愛をもって、私は笑顔で答えたい。」

切々と綴られた絆の愛おしさに感涙する。病める親を拱手傍観の子供が多く、我々はいつか来た道を忘れ、行く道を知らない。

会報編集者　**桜木　琢磨**